

令和6年度 第1回 中能登町立鳥屋小学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和6年5月1日（水）15：00～16：20
【会 場】	中能登町立鳥屋小学校 相談室
【出席者】	石過 良則、岡島 昇、北野 俊樹、北村 和江、澤 祐紀恵 竹原 仁美 学校長、福永 徹、横山 隆信（50音順） 学校代表者：大橋 亜紀子 教頭
【事務局】	学校教育課：高木担当課長 生涯学習課：大野主査 平岡 山口
【次回予定】	令和6年9月20日（金）

【進行】学校教育課：高木担当課長、鳥屋小学校：大橋教頭

1. 開会あいさつ

《竹原学校長》

学校運営協議会の委員を引き受けていただき、ありがとうございます。いよいよ、コミュニティ・スクールがスタートするが、委員さんから「鳥屋小の為なら、力を貸すよ!」と言って頂いたので、大船に乗った気持ちでおり、とても楽しみにしている。よりよい教育活動・よりよい子どもたちの育成へと、皆さんと一緒に繋げていきたい。

2. 会長、副会長の承認

※委員互選により、会長：横山 隆信さん、副会長：澤 祐紀恵さんに決定。

3. 令和6年度学校経営計画について

※竹原学校長より説明

4. 協議

①総合学習授業の充実と授業サポート体制の強化

- 生活科・総合的な学習の発表会も控えているので、地域の方との繋がりを大事にしながら実施していきたい。
- コミュニティ・スクールが始まり、すでに授業サポートを依頼しているが、他校の例を取り入れながら、地域の方の力をお借りして、より充実させていきたい。

②通学路・校内等の安全確保と環境整備

- 子どもたちの見守りについては、日頃からにっここ組が協力してくださっているが、今年はさらに安全パトロール隊の拡大に力を入れていきたい。
- 通学路の危険個所についての資料（①北村委員のアドバイスをいただきながら、総合的な学習の中で子どもたちが作ったもの、②能登半島地震後の危険個所について教員が写真を掲載し、地図上で表したものの2つ）を掲示。現在、コドモンで配信し保護者と共有している。今後、子どもたちとタブレット上で共有していけないか、現在計画中。
- 保護者宛てに安全パトロール隊を募集しているが、現在5名のみの登録。地域の皆さんにも拡げるためにはどうしていくべきか？

《意見等》

- 羽坂地区には地震で補修した道路があるが、すでに陥没しており、道の真ん中に凹みがある状態。危険個所での子どもたちの行動にも注意してほしいし、囲い込みをしてはどうか？
- 末坂地区では、情報をすぐに広めてくれる人がいる。そういった地域の方を上手に巻き込み、区長さん・地区に頼んでいくことも重要。スクールバス停での見守りも必要なのではないか？（朝30分、夕方1時間）登校時は大丈夫だが、下校時になると子どもたちは探検隊

で色んなところに寄り道をする。水辺などは特に気を付けてほしい。

- ・日々の生活に忙しい人が多いが、子どもとのコミュニケーションが少ないと感じる。
- ・黒氏地区では、子どもたちと保護者が一緒に黒氏地区から一青地区を通って登校しているが、一青地区の方が声をかけてくれる。地域の方が子どもたちに声をかける、地域ぐるみで子どもたちを育てる、守るということが大切なのではないか。
- ・子ども110番の家では、トイレを貸したり、絆創膏を貼ってあげたことがある。
- ・子ども110番の家の名簿について、十数年前までは配布していたが、現在は配布していない。見直しが必要なところもある。
- ・見守りをお願いするなら、地区の方をお願いすることも必要。毎日じゃなくても、地域の方が立って、「おかえり」と言ってもらえるような、「ながら見守り」だけでも良いのではないか。
- ・以前は、安全パトロール隊はPTAが主体で当番制だった。
- ・地区ぐるみで危険個所に誰かが立つというふうに、役割分担したらどうか。不審者と勘違いされることもあるだろうから、きちんとした形の中で見守るのが大事なのではないか。
- ・末坂地区では毎月「高齢者サロン」がある。そこで外に出て声を出してくれるよう啓発していきたい。地区の区長さんからも発信してほしい。
- ・地区もPTAも、みんなで協力して見守っていこう。
- ・良川地区の横断歩道で危険な箇所がある。(六道辻の一青信号機付近)
⇒危険だということを現場で何度も伝える必要がある。
- ・体育館裏(学校敷地内)に危険箇所があるので、道路の停止線を引いてもらった方が良いのではないか？駐在所に頼んで七尾警察に対応してもらう。
⇒学校教育課から挙げるのが良いのではないか。
- ・区長会や地区懇談会にてお願いをしてみてもどうか？
⇒地域によって時間帯や場所を洗い出し、学校側から発信・チラシを配布する等、検討。
- ・新庄地区や羽坂地区について、見通しが良くても、1.5kmくらいの距離があるので危険。

③150周年事業について ※創立は明治8年7月。事業実施は令和7年の秋ごろ予定。

●桜の木記念植樹(桜の木で満開の学校にしたい。)

⇒植樹後のお世話についても考える必要がある。まずは造園業の人に土壤等を見てもらおう。

●樹木の看板づくり

(心に残る看板づくり、樹木の名前の看板を子どもたちの手で作成してほしい)

⇒看板の素材決めから子どもたちに企画してもらうことが、子どもたちの主体性に繋がるのではないか？(5・6年の縦割り班で企画)

⇒看板が痛んだら、次の世代がまた作成することで、継承に繋がる。

●記念講演

・オーケストラ⇒毎年の文化庁事業と重なるので、特別感がないのではないか？

・手品 ・さかなクン

・スポーツ選手(赤穂ひまわりさん、池島大介さん⇒親子で参加型の競歩体験)

※学校・PTAで協議し、講演を決定していく。

●その他

・150周年にちなみ椅子を150脚購入していただく。⇒椅子がボロボロになってきている。

・ドローンで撮影したものを写真に残してはどうか？

⇒依頼先としては、地元企業や地域の方。

・動画撮影し、プロモーションビデオを作るのはどうか？

5. 閉会